

【小項目評価基準】  
 評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。  
 評価4・・・年度計画を上回って実施している。  
 評価3・・・年度計画を順調に実施している。  
 評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。  
 評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 令和4年度の業務実績に関する評価結果（案）まとめ

大項目	小項目	ウエイト	自己評価	第1回評価委員意見（斜体の記載は、質問への回答）	市評価案	評価の判断理由・評価のコメントなど	R3市評価	資料頁		
<b>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置</b>										
1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践	子ども	2	4	○高度専門医療の強化に取り組み、成果を出している。 ○救急搬送件数が増加しているのは、小児のコロナ患者等を積極的に受け入れた結果であり、高く評価できる。	4	○目標値はほぼ全ての項目で達成しており、また、「循環器集中治療科」や「子どもアレルギーセンター」を新設するなど、小児総合医療施設として求められる役割を果たすべく診療機能の充実を図っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。	4	22～27	
		市民	2	3	○高度専門医療の強化に取り組み、成果を出している。 ○救急搬送件数が増加しているのは、コロナにより地域の医療機関で受入困難となった患者等を積極的に受け入れた結果であり、高く評価できる。 ○入院単価が上がっているが、要因は何か。（脳卒中の）PSCコア施設の認定を受けたことにより、材料費対医療収益比率や薬剤費対医療収益比率が上がっているのではないかとと思うが、それも関係しているのか。 →入院単価の分母となる患者数は、コロナ対応による空床増等により大きく減少している。一方で、手術料はあまり下がっておらず、重症患者が多く入院しているという実態を反映し入院単価が上がっている。 ○入院単価の上昇については、コロナの治療薬や手術等の影響もあると思うが、コロナ対応でベッド数が少ない中、患者の重症度等に応じて効率的に運用した結果ではないか。 →令和4年度下半期からベットコントロールの取り組みを強化しており、平均在院日数が減少傾向となった。その効果もあり、包括評価による入院料の1件当たり単価が上がっていることも、入院単価の増に影響していると分析している。 ○自己評価を令和3年度は4としていたが、令和4年度は3とした要因は。 →コロナの影響により未達成の指標があるという点は令和3年度も令和4年度も同様だが、令和3年度はコロナ以外の一般病棟の病床利用率が90%以上と非常に高水準を維持したため、自己評価を4とした。しかし令和4年度は90%を下回ったため、自己評価を3としている。 ○PSCコア施設の認定を受けたことにより、地域医療支援病院としての脳卒中地域連携バスの利用率等、件数は増加したか。 →PSCコア施設の認定を受けたのは4月だが、実際の認定の通知は秋ごろであったため、その影響を現時点では把握できていない。	3	○コロナ等の影響を受けて、入院患者数や手術件数で目標値を下回った。しかし、救急搬送件数や入院単価は目標値を上回っており、脳卒中相談窓口を開設し、また、内視鏡検査やCT検査等の充実を図るなど、高度専門医療の提供に取り組んでいることなどから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。	4	28～33	
	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進	子ども	2	3	○自己評価を令和3年度は4としていたが、令和4年度は3とした要因は。 →令和3年度は、令和2年度に現地開催できなかったオープンカンファレンスをWeb開催するなど積極的に開催回数を増やしたこと、また新たに地域の医療従事者や市民の方々へのワクチン接種を行ったことを踏まえ、自己評価を4としていたが、令和4年度は引き続きの実施であるため、順調に実施しているとして自己評価を3としている。 ○オープンカンファレンス等を積極的に行っており、実際の参加人数も増加していることは高く評価できる。	4	○目標値はほぼ全ての項目で達成しており、特に逆紹介率については目標値を大幅に上回っている。また、Webを積極的に活用したオープンカンファレンスや研修会等の開催や退院前後の訪問指導の実施など、地域医療への貢献や医療連携の推進を図っており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。	4	34～37	
		市民	2	3		4	○目標値はほぼ全ての項目で達成しており、特に紹介率・逆紹介率については目標値を大幅に上回っている。また、特定行為研修による外部看護師の育成や、多職種連携による在宅療養支援の充実など、地域医療への貢献や医療連携の推進を図っており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。	3	38～41	
	(3) 災害・感染症等への適切な対応	子ども	2	4	○救急搬送件数が増加しているのは、小児のコロナ患者等を積極的に受け入れた結果であり、高く評価できる。	5	○新たに指定された県の重点医療機関として、小児へのコロナの対応を積極的に行った。また、簡易陰圧装置の導入やBCP(事業継続計画)の見直し等に取り組むとともに、広域災害時の相互支援体制強化にも努めた。 ○コロナのいわゆる第7波に際しては、急増する小児患者について、市の要請も踏まえ、休日診療体制を整備するなどして積極的に対応し、また、重症度の高い患者の受入れにも積極的に対応し多くの救急搬送患者を受け入れるなど、市立病院としての役割を果たしたことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。	4	42～45	
		市民	2	4	○救急搬送件数が増加しているのは、コロナにより地域の医療機関で受入困難となった患者等を積極的に受け入れた結果であり、高く評価できる。	5	○コロナへの対応については、引き続き県の重点医療機関として、中等症以上の患者を中心に積極的に受入れを行い中核的な役割を果たした。また、災害発生を想定した対応については、コロナ対応を踏まえたBCP(事業継続計画)等の見直しや、訓練や防災設備・備蓄物品の点検などを着実に実施している。 ○目標値は全ての項目で達成したほか、前年に引き続きJMAT(日本医師会災害医療チーム)活動や市が実施する転院支援事業に積極的に取り組んだことに加え、感染症対策としてICIC(感染対策情報発信センター)による情報提供や、関係機関との合同での感染対策訓練の実施、院内クラスターが発生した地域の医療機関への指導助言など、地域全体での感染症対策の質向上に向けて取り組んだことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。	5	46～49	
	2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上	子ども	2	3		3		3	50～53
			市民	2	3	○市民病院で全館のトイレ等の改修工事やWi-Fiの整備等、環境改善に努めているが、その効果が患者アンケートの結果にどのように反映されているか、具体的な成果として示せるとよい。具体的にそういったアンケートを行うなど、令和5年度以降の評価に生かしてほしい。 →トイレ等の改修工事完了が令和4年度末、Wi-Fiの整備等の完了が令和4年12月であり、アンケートの施設設備面に関する評価にどの程度反映されているのかはつかめていない。ご意見を踏まえ、今後分析を行ってみたい。	3		3	54～57
		(2) 情報発信	子ども	1	3		3		3	58～61
市民			1	3	○自己評価を令和3年度は4としていたが、令和4年度は3とした要因は。令和3年度はコロナ対応の記録集を刊行したため自己評価を4としていたように思うが。 →その通りである。 ○病院ホームページへのアクセス数の減少理由を採用情報が機構本部のサイトへ移動したこととしているが、本来この項目でいう情報発信は患者サービスの向上に関するものであり、患者サービス向上の視点から改善策の検討に努めるべきと考える。	3	○病院ホームページのアクセス数で目標値を下回った。しかし、その要因は主にサイト構成の見直しによるものであり、移動したページ以外ではアクセス数に大幅な減少は見られなかったことや、出前講座の開催件数が過去最高となるなど、地域住民や中高生などに向け幅広く積極的な情報発信に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。 ○なお、病院ホームページのアクセス数については、刷新に応じた適正な目標の設定及びその達成に努めるとともに、新たな取組についても、極力、指標を設定するなどして、実施状況の分析に資するよう努めること。	4	62～63	
3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修	子ども	2	3		3		3	65～67	
		市民	2	3		4	○医療の質向上研修受講率はWeb研修を活用するなど実施方法を工夫した結果100%に達しており、また、人材確保の観点からも職場環境づくりに取り組んだ結果、看護師の離職率が県内の離職率の平均値や全国公立病院の離職率の平均値より低い値で推移しているなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。	3	68～71	
	(2) 信頼される医療の実践	子ども	2	3	○自己評価を令和3年度は4としていたが、令和4年度は3とした要因は。薬剤管理指導件数の減少が影響しているのか。 →その通りである。熟練した薬剤師の育児休業等に対する人員補填ができず、薬剤師不足による薬剤管理指導件数の減が影響している。	3	○薬剤師不足により薬剤管理指導件数で目標値を下回った。しかし、その他の指標については目標値を達成しており、また、クリニカルパスを活用した治療内容の可視化等患者中心の医療の実践に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。 ○なお、人材確保は病院運営にとって重要であり、人員の不足にあたっては迅速に対応し必要な人材を確保するよう努めること。	4	72～75	
		市民	2	3	○自己評価を令和3年度は4としていたが、令和4年度は3とした要因は。薬剤管理指導件数の減少が影響しているのか。 →その通りである。コロナ等による入院患者の減少、また、重症度等に応じた転院促進等による平均在院日数の減少による薬剤管理指導件数の減が影響している。	3	○薬剤管理指導件数で目標値を下回ったが、その主な要因は患者の在院日数の短縮により指導件数が減少したものであり、実際に指導を受けた患者の数は令和3年度からほぼ変わっていない。他の指標は目標値を上回っており、また、クリニカルパスを活用した治療内容の可視化等、患者中心の医療の実践に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。	4	76～79	

【小項目評価基準】 評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。  
 評価4・・・年度計画を上回って実施している。  
 評価3・・・年度計画を順調に実施している。  
 評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。  
 評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 令和4年度の業務実績に関する評価結果（案）まとめ

大項目	小項目	ウエイト	自己評価	第1回評価委員意見（斜体の記載は、質問への回答）	市評価案	評価の判断理由・評価のコメントなど	R3市評価	資料頁	
<b>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</b>									
	1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	1	3		3		3	80～81	
	2 事務部門の機能強化	1	3		3		3	82～83	
	3 働きがいのある職場環境づくり	1	3	<p>○メンタルヘルス等の面接をしっかりと実践していることは評価できる。新設された育児支援制度を職員が実際に使える環境となっているのか、利用実績は。                      →病院保育利用料助成制度は令和4年6月から令和5年3月までで延べ39人（延べ65回）、産後パパ育休は令和4年10月から令和5年6月までで3人。</p> <p>○医師の時間外勤務の上限規制が令和6年度から始まることを受け、タスクシフトやタスクシェアについて、資格取得等のスキルアップを進めているが、具体的にどの程度進んだのか。                      →市民病院では、医師が行うエコー検査を検査技師が行うことができるよう資格取得を進める等している。また、特定行為研修修了者が「気管カニューレ交換」を令和4年度に34件実施している。</p> <p>○令和6年度からの医師の働き方改革に関して、特にこども病院では循環器集中治療科の新設により、心臓外科医の時間外労働が変化したのではないかと。                      →循環器集中治療科は、心臓外科医の術後管理に内科医を配置し、心臓血管外科医の負担を減らすという目的で新設したが、時間外労働の時間は新設後もあまり変化はない。</p> <p>○今後人材確保が難しくなることが予想され、離職防止、定着促進の重要度が増す。エキスパートの育成とともに、一般職員のリスキリング等職員のキャリアアップや、セカンドキャリア等定年退職以降の職員等の活用について検討を進めていただきたい。</p> <p>○処遇改善については、手当以外に、職位変更や職位に見合った処遇などを、看護師以外の職種も含め、検討いただきたい。</p>	3	3	84～87		
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保	1	3		3		3	88～89	
<b>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</b>									
1 持続可能な経営基盤の確立	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化	こども	2	3			3	90～91	
		市民	2	3		3	○コロナの影響等により、医業収支比率は目標値を下回ったものの、コロナ対応に係る補助金収入により経常収支比率は目標値を上回っていることを勘案し、年度計画を順調に実施していると判断して、「評価3」とする。 ○なお、医業収支比率については、コロナ対応終了後の経営も見据え、改善に向けた取組を進められたい。	3	92～93
	(2) 投資財源の確保	1	3		3		3	94～95	
2 収支改善	(1) 収益確保	こども	2	3			3	96～99	
		市民	2	3		3		3	100～103
	(2) 費用削減	こども	2	3	○薬品費対医業収益比率など、目標値と比べ特に低くなっている指標については、コロナや小児感染症の流行による影響など、未達の理由についてより丁寧に説明していただきたい。 →薬品費対医業収益比率は、小児感染症予防薬（シナジス注射）の件数が令和3年度から倍増し約5,000万円の支出増、その他神経系の高額医薬品等の件数増で合計約8,000万円の支出増となったことなどが影響し、目標値を下回ったと分析している。	3	○材料費及び薬品費対医業収益比率の指標がわずかに目標値を下回っているが、ICT（情報通信技術）を活用した業務の効率化、SPD（医療材料物流管理）事業者との連携による診療材料費の節減、施設・設備の長寿命化及び維持修繕費用の削減等に着実に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。	3	104～107
		市民	2	3	○薬品費対医業収益比率など、目標値と比べ特に低くなっている指標については、コロナや小児感染症の流行による影響など、未達の理由についてより丁寧に説明していただきたい。 →薬品費対医業収益比率は分母となる医業収益が見込みよりも下がったこと、コロナに係る薬品費の増などが影響し、目標値を下回ったと分析しているが、給与費は支出は予算と比較し減となったものの医業収益が下がったことにより対医業収益比率が上がり、結果目標未達となっている。なお、ジェネリック医薬品導入率の目標未達は、供給不安定の長期化によるものである。	3	○コロナの影響による医業収益の減や薬品費の増により、目標値を全ての項目で下回ることとなったが、令和4年度決算における医業費用の額については令和3年度より減少するなど費用削減は進められている。また、RPA（Robotics Process Automation）を活用した業務の効率化、SPD（医療材料物流管理）事業者との連携等による診療材料費の節減、施設・設備の長寿命化等に着実に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。	3	108～111
<b>第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置</b>									
	1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	こども	2	4	○臨床研究の業績については、高度な取組が行われていると思われるので、研究費の種類別など、より実績が分かりやすい説明を検討されたい。 ○令和3年度と同等の成果を出していると思われるが、どこか令和3年度との違い、令和4年度特筆すべきことなどはないか。特に川崎病の実績については例年他の委員からも高い評価を受けており、まったく同等であれば自己評価を1ポイント上げてほしいと思う。 →令和3年度は、特に川崎病に関する研究論文について学会の権威ある賞を受賞したこと、英語論文数等で全国トップレベルと示されたことなどから、自己評価4に対し市の評価で5となった。なお、川崎病の手術症例の増加傾向は全国的なものである。	4	○循環器集中治療科の新設による重症集中治療系医療体制の拡充や、臨床研究や治験への積極的な取組など、小児総合医療施設として求められる役割を果たすべく医療機能の充実を図っており、またコロナの感染拡大時における小児感染症診療の提供体制の確保に努めたことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。	5	112～115
	2 福岡市民病院における経営改善の推進	市民	2	3	○令和3年度と同等の成果を出していると思われるが、どこか令和3年度との違い、令和4年度特筆すべきことなどはないか。まったく同等であれば自己評価を1ポイント上げてほしいと思う。 →令和4年度と令和3年度で取組に変更はなく、令和3年度に引き続いての取組内容であるため「計画を順調に実施している」と自己評価している。	3	○感染症対策に関する地域への情報提供や、高度専門医療や高度救急医療の推進など、求められる役割を果たしながら、コロナ対応についても引き続き積極的に取り組んでおり、また、収支面では、コロナ対策に伴う国や県からの補助金を活用し経常収支における黒字を達成するなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。	4	116～119